子どもとともに 本をひらこう 未来のページ
（『大洲市子ども読書活動推進計画』より）

学校の先生たち おすすめ

うちどく ブックリスト

小学校 中学年 版

「うちどく(家読)」とは、家族で読書をすること。家族みんなで本を読んで、その本について話したら、それが「うちどく」です。
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！

ソメコとオニ

斎藤 隆介／作
滝平 二郎／絵
岩崎書店
1987年 ￥1200

ソメコがひとりで草つみをしていると、遊んでくれるおじさんが現れました。しかし、その正体がオニだと分かっても、ソメコは平気。オニはソメコとひきかえに金の俵を要求する手紙を書くつもりでしたが……。

ルドルフと イッパイアッテナ

斉藤 洋／作
杉浦 範茂／絵
講談社
1987年 ￥1300

ルドルフは、長距離トラックの荷台に迷い込んでしまいました。ルドルフがたどり着いた場所は、大都会東京でした。街で最も恐れられているボス猫イッパイアッテナと出会ったルドルフ。東京でののら猫生活が始まります。

学校ウサギをつかまえろ

岡田 淳／さく・え
偕成社
1986年 ￥1000

転校生の美佐子が、学校のウサギをにがしてしまいました。夕方の工事現場で、ウサギをつかまえるために、6人は協力してがんばりました。やがて、みんなの心が通じ合っていきます。

100万回生きたねこ

佐野 洋子／作・絵
講談社
1977年 ￥1400

100万回生まれかわっては、飼い主のもとで死んでゆく猫。飼い主たちは猫の死をひどく悲しんだが、猫自身は死ぬのなんか平気だった。ある時、猫は誰の猫でもない野良猫となり、一匹の白猫に恋をする…。 ○

チロヌップのきつね

たかはし ひろゆき／文・絵
金の星社
1972年 ￥1200

チロヌップという島で、きつねの親子が楽しくくらしていました。戦争がはげしくなった年、兵隊たちがやって来ました。ぼうやぎつねがうたれ、ちびこぎつねも、鉄のわなにかかってしまい、どうすることもできませんでした。

現在購入できる版の出版年を掲載しています。
価格は2016年10月末現在の本体価格です。

掲載については出版社の許諾を得ています。
無断で転載することを禁じます。

○印がついた本の内容紹介は、TRC マークを使用しています。

2017年1月発行
大洲市小中学校
大洲市立図書館

ココロ屋

梨屋 アリエ／作
菅野 由貴子／絵
文研出版
2011年 ￥1200

「ココロを入れかえなさい。」また先生におこられてしまった。教室からにげだしたぼくの目の前にココロ屋があらわれて、「さて、どのココロにいたしましょうか」と聞いてきた。えっ、ココロって、取りかえられるの？ぼくは、ココロ屋の“やさしいココロ”と自分のココロを取りかえてみた。すると…。 ○

エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット／さく
ルース・クリスマン・ガネット／え
わたなべ しげお／やく
福音館書店
2010年 ￥1200

エルマーは、やばんな動物たちにつかまったかわいそうなりゅうの子どもを助けに行くことにしました。エルマーは、どうもうな動物たちにつかまりそうになりますが、知恵を働かせ、ピンチを切り抜けます。

そいつの名前はエメラルド

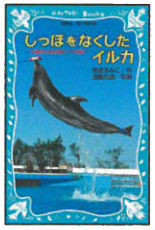
竹下 文子／作
鈴木 まもる／画
金の星社
2008年 ￥1300

そもそものはじまりは、ふうちゃんの7さいの誕生日。ぼくは、プレゼントのハムスターを買いに出かけて、きみょうな小鳥屋にまよいこんだ。そこで出会ったのは、ちっちゃな恐竜のようなトカゲだった。そのふしぎなトカゲは、人のことばがわかるみたいで…。 ○

火曜日のごちそうは ヒキガエル

ラッセル・E.エリクソン／作
ローレンス・ディ・フィオリ／絵
佐藤 涼子／訳
評論社
2008年 ￥1100

そうじがだいすきなウォートンと、料理がだいすきなモートンはヒキガエルのきょうだい。土の中の家でなかよくくらしています。ウォートンは冬のある日、おばさんをたずねることにしました。スキーですべっていくと、雪の上に黒いかげ！見上げると、ミミズクがおおきなつばさを広げて…。 ○



しっぽをなくしたイルカ

岩貞 るみこ／作
加藤 文雄／写真
講談社
2007年 ￥600

沖縄美ら海水族館のイルカ、フジ。原因不明の病気で尾びれをなくしたフジに、イルカの泳ぎを取りもどさせたい！世界初のイルカの人工尾びれをつくるプロジェクトがはじまった！イルカと人間たちのほんとうにあった物語。 ○

としょかんライオン

ミシェル・ヌードセン／さく
ケビン・ホークス／え
福本 友美子／やく
岩崎書店
2007年 ￥1600

ある日、まちの図書館にライオンが入ってきました。人々は大あわて。でもメリウェザー館長は、静かにお行儀よくできるのなら来ていいですよ、と言いました。やがてライオンは、みんなと仲良しに。ところがある日…。 ○

いのちのおはなし

日野原 重明／文
村上 康成／絵
講談社
2007年 ￥1300

95さいの日野原重明先生は、今もかんじゃさんのしんさつをしている医師です。先生は、黒板にチョークで０と書くと、そこから白くて長い線を引いて、線のさいごに100と書きました。さあ、どんな命のお話が、これからはじまるのでしょう。日野原先生が、４年生の教室で行った、命の授業の絵本です。 ○

わたしと小鳥とすずと

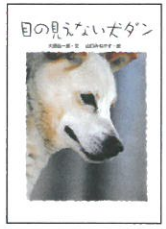
金子 みすゞ／作
金の星社
2005年 ￥1000

「かあさん知らぬ 草の子を、なん千万の 草の子を、土はひとりで 育てます。草があおあお しげったら、土はかくれて しまうのに」（「土と草」より）。ほかに「朝顔のつる」「日の光」「転校生」「空のこい」など、自然や小さな生きものをあたたかく見つめた詩が11編入っています。 ○

あらしのよるに

木村 裕一／作
あべ 弘士／絵
講談社
1994年 ￥1000

荒れ狂った嵐の夜、壊れかけた小屋で、嵐を避けて飛び込んできたヤギとオオカミがハチ合わせ。小屋の中はまっ暗。おまけにお互いカゼをひいて鼻もきかない。2匹はおしゃべりをしていくうちに…。 ○



目の見えない犬ダン

大西 伝一郎／文
山口 みねやす／絵
学研プラス
2001年 ￥1200

「盲導犬は人を助けてくれるのに、目の見えない犬はどうしてすてられるの?」 平成5年夏、ダンボール箱に入れられ、川に流されていた目の不自由な子犬を子どもたちがすくいました。ほんとうにあったお話。 ○

チョコレート戦争

大石 真／作
北田 卓史／絵
理論社
1999年 ￥1200

おとなはなんでぼくたちのいうことを信じないの？ 身におぼえのない、罪をきせられたことから、子どもたちは町一番のケーキ屋さんに戦いをいどみます。日本児童文学のロングセラーをリニューアル。 ○

花豆の煮えるまで

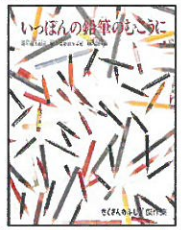
安房 直子／作
味戸 ケイコ／絵
偕成社
1993年 ￥1200

安房直子さんの短編小説集、全６話。山の生活、温泉宿の生活が描かれています。小夜のお母さんは山んばの娘らしいのです。どこへ行ってしまったのか。なぜ人間とけっこんしたのか。花豆をにながらおばあさんが語ります。

ファーブルこんちゅう記 3 かりをするはちの話

こばやし せいのすけ／ぶん
たかはし きよし／え
あすなろ書房
1993年 ￥1200

ファーブルという虫が大好きな学者が書いた本です。ツチスガリというハチは、タマムシをおそって、おしりのはりでチクリとますいの注しゃをします。なぜそんなことをするのでしょうか？



いっぽんの鉛筆のむこうに

谷川 俊太郎／文
坂井 信彦ほか／写真
堀内 誠一／絵
福音館書店
1989年 ￥1300

一本の鉛筆を作るために、たくさんの人が関わっています。だれが木を切り、だれが運んだのか、だれが黒鉛を掘り出したのか。工場でどのように作られるのか。それぞれの国の人びとの仕事と生活、考え方が書かれています。

手ぶくろを買いに

新美 南吉／作
黒井 健／絵
偕成社
1988年 ￥1400

毛糸の手袋を買ってやろうと思った母狐は、子狐の片手を人の手にかえ、町へ送り出しました。新美南吉がその生涯をかけて追求したテーマを黒井健が絵本化。 ○